

ぐびろが丘



編集長
松本 学 (学友会 広報部)

編集部
長崎大学医学部ぐびろが丘編集部
長崎医学同窓会
〒852-8523 長崎市坂本1丁目12番4号
☎095-848-5484
E-mail: ryojun-do@med.nagasaki-u.ac.jp

印刷
株式会社インテックス

新入生のためのオリエンテーション

4月1日、2年生の有志による初の企画「新入生のためのオリエンテーション」が開催されました。

まず、2年生の総代から新入生に向けて、歓迎の言葉とこれからの学生生活を送る上でのアドバイスがありました。

参考書や、学習する上でのアドバイスがありました。時折、笑いも織り交ぜたレクチャーで、会場は終始暖かい雰囲気でした。

入学し、医学部での生活で困ったこと、早く知っておきたかったことなど、彼らの体験をもとに新入生にアドバイスをしたいという2年生の強い要望で実現したオリエンテーションでした。

「目標をもって生活すること」「ダラダラならないよう気をつけること」など、5年生の僕も聞いていて耳が痛くなるような内容でした★

その後は、1年次の講義について、おすすめの



～企画者より～ (司会の柳くん)

先日、新入生のオリエンテーションの司会をさせていただきました。これは、私たちの代が初めてだったので、うまくいかなかったのが不安でした。また、このような会の司会も人生で初めての体験だったので、すごく緊張しました。しかし新入生達はオリエンテーションが始まると、皆真剣に話を聞いてくださいました。2年生の有志全員、また生協の方々や学務の方々で、このようなオリエンテーションを成功させることができ、よかったです。

～新入生の感想～

おすすめの教科書の説明がよかった、高学年の先輩方のお話がためになった、人体構造の説明の時の先輩方が面白かったなどが挙げられました。



たくさんの新入生が参加してくれました！



福岡順也教授 (左) と 分部哲秋先生

今年度はあいにく雨でのスタートとなりましたが、学内の桜はふわりと花を咲かせ、新しい春を迎えた私たちを明るく包んでくれました。

さて、長崎大学医学部医学科にもこの4月、医師になる夢を抱えた新一年生が入学しました。学友会では今年も新入生を歓迎する生協パーティーを開催しました。その模様をお届けします。

まずはじめに、教務委員会 副委員長である病理診断科 福岡順也教授よりご挨拶をいただきました。教授から新一年生へ、「夢はありますか？」、「それが叶う可能性は何パーセントですか？」という投げかけ。

叶う可能性が十分にありません。叶えるのはとても難しいが、価値のあること。常に高い理想に満ちている教授自身の経験は、新入生を強く惹きつけていました。そんな大きな「夢」

を人生で持つて欲しいとのメッセージでした。

次に、医育センター副センター長 分部哲秋先生よりお話しいただきました。医学部での勉強についてのシビアなご意見もあり、これから始まる医師への道に緊張感を持って臨むための、厳しくも優しい激励となりました。会場にいた私達も身の引き締まる思いでした。

続いて、我が学友会会長 五年生 松本学君より、「周りに流されず、自分の好きなことをして欲しい」という、先輩らしいメッセージとともに

乾杯しました。

この後は各部活・サークル紹介のコーナーです。それぞれの特色やキャラクターを活かした紹介(出し物?)に、新入生からもどっと笑いがおこったり歓声が出たり。紹介が終わった後は、先輩方も会場に皆入り、交流や勧誘となりました。時間いっぱいまで多くの人が楽しんでもらえたように思います。間近で見ると先輩方・先輩たちの姿は、新入生にどのような印象を与えたのでしょうか?彼らの有意義で楽しい学生生活の良ききっかけになればと思います。



松本学君

学友会便り

今年も生協パーティーを開催しました!



～新入生の感想～

- ◆医学部は堅いイメージがありましたが、アットホームな雰囲気でした。
- ◆サークルの勧誘が激しくて圧倒されてます…
- ◆先輩と話すのは初めてでしたが、明るい方が多く楽しかった!
- ◆上級生と話すいい機会になった!



部活・サークル紹介は賑やかでした



こんなことやっています!! 特集

長大医学部生の活躍を紹介するこの特集、第二回は三年生の荒倉 由佳さんにお話を伺いました。荒倉さんは昨年四月に編入学されたいわゆる「学士さん」。この活動全部、たったの一年で!?...というくらい、それはそれは濃い活躍をされています。同じ学士編入生である市川がインタビューしてきました。他の学生さんとは違うバックグラウンドを持つ荒倉さんは、どんな経歴・思いからどんな活動をしているのでしょうか。

— 荒倉さんとは昨年末に二人で一度お食事をして、その時に軽い気持ちで近況をお伺いしたら、本当にびっくりするくらいたくさん活動されている。「この人は何者なんだ!?!」という感じでした(笑) 今回はぐびろが丘新聞の取材という形でお話を聞かせてください。

— お聞きする機会をいただきありがとうございました。今日も二週間後にニューヨークへ行かれる準備とサークルの新歓活動で多忙の中、ありがとうございます。

荒倉さん(以下、荒)・・・いいえ!こちらこそありがとうございます。

— 核兵器廃絶なんて難しいテーマですが、荒・・・私もそう思っていました。でも一度ちゃんと向き合ってみたいなって。せっかくこの長崎に来たのだから、原爆の被害や戦争について考えたり、同じ長崎に住んでいたらしゃる被爆者の声に耳を傾けてみたいなど。加えて将来医療者になる身として、人の痛みに寄り添うってどういうことだろうかと。この春休みは別の活動で沖縄に行つて、第二次世界大戦の沖縄地上戦のことを勉強させてもらいました。

— 核兵器廃絶なんて難しいテーマですが、荒・・・私もそう思っていました。でも一度ちゃんと向き合ってみたいなって。せっかくこの長崎に来たのだから、原爆の被害や戦争について考えたり、同じ長崎に住んでいたらしゃる被爆者の声に耳を傾けてみたいなど。加えて将来医療者になる身として、人の痛みに寄り添うってどういうことだろうかと。この春休みは別の活動で沖縄に行つて、第二次世界大戦の沖縄地上戦のことを勉強させてもらいました。

長崎で考えたいこと

— そのニューヨークはどのような経緯で行かれるんですか?

荒・・・長崎県と長崎市、長崎大でつくる核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCUNO)ナガサキ・ユース代表団の一員として、国連本部で開催される核不拡散条約(NPT)再検討会議に参加してきました。長大ではRECNAがその中心です。

— レ、RECNA? 違います、RECNAってのは...?

荒・・・RECNAは「核兵器廃絶研究センター」の通称で、核兵器廃絶のために、研究や人材育成を行っている組織です。長大の中にあるんですよ! RECNAに来るのは

— ええ、全然知らないんですけど。RECNAはどんなきっかけで知ったんですか?

荒・・・大学のホームページで偶然知っただけで

長大生が多いですが、県内の他大や高校生、時に県外や海外の学生も遊びに来ます。活動としては1~2週間に一度、ゲストスピーカーをお招きしておやつを食べながら(笑)勉強会を行っています。あとユース代表団のメンバー12名もRECNAの活動に参加しており、核不拡散条約再検討会議では核兵器問題や平和について、会議の傍聴や世界中のNGO団体や国連の方々の前で発表するなどします。

— ええ、全然知らないんですけど。RECNAはどんなきっかけで知ったんですか?

荒・・・大学のホームページで偶然知っただけで

— 原爆の被害にあった長崎から来た大学生が国際的な場で発信すること自体、とても意義深いように思います。国連の方たちがいるところで発表するなんて、すごいことですよ!

荒・・・被爆者や外交官、NGOから若者への期待は、本当に大きいです。私自身も感じますね。私は今回、他のユースのメンバーが思いや提言をちゃんと伝えられるようサポートするつもりです。メンバーは色々な学部の人たちが集まっています。新しい気づきをもたらしていますね。

※長崎大学 核兵器廃絶研究センター (RECNA) <http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

2つの新しいサークル

— 今年新しいサークルの立ち上げにも関わっているんですよね。今はその新歓活動でも忙しいと(笑)

荒・・・はい。ひとつは、国際医学学生連盟(IFMSA)です! IFMSA自体は50年以上続いている世界的なNGOで、日本支部のIFMSA-Japanには全国の医療系学生と大学が参加していますが、長大は今のところ大学としては加盟していません。

— またもや初めて聞く団体さんです。どんなことをしてるんですか?

荒・・・【公衆衛生】(性と生殖・AIDS)【医学教育】(人権と平和)【基礎交換留学】(臨床交換留学)という6つの各テーマに分かれて活動します。テーマの中でさらにいくつかのプロジェクトがあり、私は【人権と平和】に関する活動に参加し、ホームレスや子どもの貧困に関するプロジェクトや被爆地スタディツアーに関わっています。前述の沖縄に行つたというのはIFMSAのイベントです。旧海軍司令部壕やひめゆりの塔、ガマという自然洞窟の中に作られた旧陸軍病院分室への見学や、ワークショップを行いました。

— (IFMSAのパンフレットを見つ) 本当にいろんなプロジェクトがありますね、おもしろい! 個人的には「性と生殖・AIDS」が気になります。LGBT(レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トラン

爆地スタディツアーに関わっています。前述の沖縄に行つたというのはIFMSAのイベントです。旧海軍司令部壕やひめゆりの塔、ガマという自然洞窟の中に作られた旧陸軍病院分室への見学や、ワークショップを行いました。

— (IFMSAのパンフレットを見つ) 本当にいろんなプロジェクトがありますね、おもしろい! 個人的には「性と生殖・AIDS」が気になります。LGBT(レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トラン



右から2番目が荒倉さん



WHAT IS IFMSA??

International Federation of Medical Students' Associations (IFMSA) は、WHO (世界保健機関) WMA (世界医師会) によって認められた医学生による非営利・非政治の国際NGOです。約100の国と地域が加盟し、120万人以上の医学生が参加しています。IFMSAには、臨床交換留学、基礎研究交換留学、公衆衛生、性と生殖・AIDS、人権と平和、医学教育の6つの常設委員会があり、世界各国で様々なプロジェクトやワークショップを運営しています。IFMSA-Japanでは全国の医療系学部の団体会員、および個人会員によって構成されています。将来のより良い医療従事者の育成を目指し、上記6つの委員会活動に加え様々な規模の活動を実施しています。

H27.6.13 (Sat) 九州・山口新歓 @九州大学

5/9 中国 5/16 東北 5/23 北陸 5/24 関東 5/30 関西 5/31 東海九州 6/6 四国 6/13 九州 6/20 北海道 <http://www.ifmsa.jp> 事務局: secret@ifmsa.jp

長崎大学 医学部生、実は

スジェンダー)やピアエデュケーション(大学生による中高生への性教育)を取り上げてますね。医学という範疇を超えて社会にタッチするようなテーマが多いみたい。

荒:サークルを作り大学として加盟すれば、学部生に情報が入る仕組みができますし、「交換留学」のテーマにも参加することができるようになるんです。長

大の皆さんも海外からの留学生との交流が増え、海外留学の幅も広がることになるので、みんなに関わって欲しい!

—それは他の長大生にとって嬉しいですね。留学はしてみたいけどどうしたらいいのかな

荒:サークルを作り大学として加盟すれば、学部生に情報が入る仕組みができますし、「交換留学」のテーマにも参加することができるようになるんです。長

大の皆さんも海外からの留学生との交流が増え、海外留学の幅も広がることになるので、みんなに関わって欲しい!

—それは他の長大生にとって嬉しいですね。留学はしてみたいけどどうしたらいいのかな

荒:サークルを作り大学として加盟すれば、学部生に情報が入る仕組みができますし、「交換留学」のテーマにも参加することができるようになるんです。長

大の皆さんも海外からの留学生との交流が増え、海外留学の幅も広がることになるので、みんなに関わって欲しい!

—それは他の長大生にとって嬉しいですね。留学はしてみたいけどどうしたらいいのかな

荒:サークルを作り大学として加盟すれば、学部生に情報が入る仕組みができますし、「交換留学」のテーマにも参加することができるようになるんです。長

大の皆さんも海外からの留学生との交流が増え、海外留学の幅も広がることになるので、みんなに関わって欲しい!

—それは他の長大生にとって嬉しいですね。留学はしてみたいけどどうしたらいいのかな

荒:サークルを作り大学として加盟すれば、学部生に情報が入る仕組みができますし、「交換留学」のテーマにも参加することができるようになるんです。長

大の皆さんも海外からの留学生との交流が増え、海外留学の幅も広がることになるので、みんなに関わって欲しい!

—それは他の長大生にとって嬉しいですね。留学はしてみたいけどどうしたらいいのかな

荒:サークルを作り大学として加盟すれば、学部生に情報が入る仕組みができますし、「交換留学」のテーマにも参加することができるようになるんです。長

大の皆さんも海外からの留学生との交流が増え、海外留学の幅も広がることになるので、みんなに関わって欲しい!

—それは他の長大生にとって嬉しいですね。留学はしてみたいけどどうしたらいいのかな

荒:サークルを作り大学として加盟すれば、学部生に情報が入る仕組みができますし、「交換留学」のテーマにも参加することができるようになるんです。長

大の皆さんも海外からの留学生との交流が増え、海外留学の幅も広がることになるので、みんなに関わって欲しい!

—それは他の長大生にとって嬉しいですね。留学はしてみたいけどどうしたらいいのかな

荒:サークルを作り大学として加盟すれば、学部生に情報が入る仕組みができますし、「交換留学」のテーマにも参加することができるようになるんです。長

大の皆さんも海外からの留学生との交流が増え、海外留学の幅も広がることになるので、みんなに関わって欲しい!

—それは他の長大生にとって嬉しいですね。留学はしてみたいけどどうしたらいいのかな



右から2番目が荒倉さん



左から2番目が荒倉さん

荒:サークルを作り大学として加盟すれば、学部生に情報が入る仕組みができますし、「交換留学」のテーマにも参加することができるようになるんです。長

大の皆さんも海外からの留学生との交流が増え、海外留学の幅も広がることになるので、みんなに関わって欲しい!

—それは他の長大生にとって嬉しいですね。留学はしてみたいけどどうしたらいいのかな

荒:サークルを作り大学として加盟すれば、学部生に情報が入る仕組みができますし、「交換留学」のテーマにも参加することができるようになるんです。長

大の皆さんも海外からの留学生との交流が増え、海外留学の幅も広がることになるので、みんなに関わって欲しい!

—それは他の長大生にとって嬉しいですね。留学はしてみたいけどどうしたらいいのかな



いかがでしたか?自分の夢をアクティブに実現するエネルギーに満ちた方だろうと臨んだインタビューでしたが、お話を伺う中で見えてきたのは、長大生がもつとアンテナを高く張ることができるようにと、サポートに徹する荒倉さんでした。長大、医学部という枠にとられない幅広い活動自体だけでなく、そんな荒倉さんのお人柄がこのインタビューで伝わったら、嬉しく思います。

目指す医師像

—これまでのお話を聞いてみると、昔から海外に興味があったんですね。前の大学でもたしか海外に行かれてましたよね?

荒:以前の大学の時にアメリカに一年、高校の時もカナダに一年留学してました。大学ではフィールドワークでインドネシアやガーナに行きました。

—でも、将来は日本で働きたいって以前言っていましたね。すごく不思議です!こんなに海外に興味を持って生きてきたのに、なぜ日本で働きたいんですか?

荒:海外フィールドワークでは現地の方々との関係構築が、一緒に問題を解決して、達成感を共有するという喜びがあり

—あ、あともうひとつ、サークル作りに関わっているんですね。荒:はい!多職種連携をテーマにした「長崎多職種連携・たまごの会」です。長崎純心大学で社会福祉士(いわゆるソーシャルワーカー)などの福祉系専門職に就くために勉強している子達と新2年の長大生が中心になって一緒に作ったサークルです。

—長大の医学部で近隣の大学とのインカレサークルってあまり聞いたことがないような気がします。荒:学生という「たまご」のうちから、隔たりにくくお互いの専門分野の考え方を

—あ、あともうひとつ、サークル作りに関わっているんですね。荒:はい!多職種連携をテーマにした「長崎多職種連携・たまごの会」です。長崎純心大学で社会福祉士(いわゆるソーシャルワーカー)などの福祉系専門職に就くために勉強している子達と新2年の長大生が中心になって一緒に作ったサークルです。

—あ、あともうひとつ、サークル作りに関わっているんですね。荒:はい!多職種連携をテーマにした「長崎多職種連携・たまごの会」です。長崎純心大学で社会福祉士(いわゆるソーシャルワーカー)などの福祉系専門職に就くために勉強している子達と新2年の長大生が中心になって一緒に作ったサークルです。

—あ、あともうひとつ、サークル作りに関わっているんですね。荒:はい!多職種連携をテーマにした「長崎多職種連携・たまごの会」です。長崎純心大学で社会福祉士(いわゆるソーシャルワーカー)などの福祉系専門職に就くために勉強している子達と新2年の長大生が中心になって一緒に作ったサークルです。

—あ、あともうひとつ、サークル作りに関わっているんですね。荒:はい!多職種連携をテーマにした「長崎多職種連携・たまごの会」です。長崎純心大学で社会福祉士(いわゆるソーシャルワーカー)などの福祉系専門職に就くために勉強している子達と新2年の長大生が中心になって一緒に作ったサークルです。

リサーチセミナー
留学体験記 Universität Würzburg 3年 鈴木 文隆

リサーチセミナーの期間で二ヶ月間ドイツのビュルツブルグ大に留学させて頂きました。ビュルツブルグはドイツの空の玄関口ともいえるフランクフルトから車で一時間半程度の、人口15万人ほどのドイツでは中規模の街です。住民の多くは大学関係者で教会が多く、大都市、教会都市とも言われています。ビュルツブルグ大はレントゲン、アルツハイマー等近代医学史に残る巨頭を数多く輩出してきました。また長崎と関係の深いシールボルトもビュルツブルグ大の出身です。



留学生たちと

リサーチは精神科教室で、長崎大、ビュルツブルグ大等の大学合同で行っているパニック障害原因遺伝子同定プロジェクトの一部に参加させていただきました。日本人のパニック家系で見られたSNPsがドイツ人パニック患者内でも同様に存在するか実験しました。残念ながら全く結果が出ませんでした。リサーチは一ヶ月ほど打ち切り、その後は精神科のintensive病棟で実習

をさせて頂きました。リサーチセミナーの目的とは外れる上に、いままでは病棟実習の経験もなく、さらにはまだ精神科の授業さえ受けてない状態です。遠く離れたドイツに到着してからは、電気を動かす等々初めて聞く単語ばかりでかなり苦労しました。臨床実習では毎日採血や患者さんとの面会に参加していましたが、intensive病棟というこ

ともあり、患者さんが薬の影響でろれつが回らなかつたり、時には錯乱していたりと話の理解がなかなか難しいことも多く、生半かな語学力では臨床現場では通用しない

と実感させられました。日本とヨーロッパの大学の国際化の差も痛感させられました。ヨーロッパの大学では Erasmus という相互留学制度が発達しており、他国で高等教育を受けられるチャンスが豊富にあります。日本の医学部生が半年〜一年の長期で海外に正規の留学に行ったり、海外の学生が長期で日本に来たりすることはそうそうありませんが、ビュルツブルグには Erasmus 制度を使ってヨーロッパ諸国から多くの長期留学生が来ています。また同様にビュルツブルグから留学する学生も多く、大学全体として国際感覚を養う環境が整っていました。

滞在中はリサーチや実習だけでなく、ビュルツブルグ大の Decker 教授、Donatke 教授、国際連携と交流したり、休日にはドイツ各地に旅行に行ったりと、毎日非常に充実していました。また、リサーチ期間後には幸運にもジュネーブの

WHO本部で一週間研修する機会を頂きました。現在 WHO が取り組んでいる大きな課題である Universal health coverage について等々様々な分野についてご講義を頂き、大変勉強になりました。短い期間の間に研究、臨床、行政の三面を見るのができたのは今後の自身のキャリアパスを考える上で非常に有意義だったと思います。

私にとって三回目のドイツ、ヨーロッパ滞在でしたがなにかはつきりした目的をもって行くのは今回が初めてでした。結果的に目的であったリサーチは上手くいきませんが、日本にいては出来なかったであろう新たな気づきや着想が得られたことは大きな収穫になりました。最後はやはりですがこのように貴重な機会を下さった精神科の小澤教授、小野先生、ビュルツブルグ大の Decker 教授、Donatke 教授、国際連携と交流したり、休日にはドイツ各地に旅行に行ったりと、毎日非常に充実していました。また、リサーチ期間後には幸運にもジュネーブの

私は今年二月より二ヶ月間、オランダ・ライデン大学の附属病院である LUMC (Leids Universitair Medisch Centrum) の Cardiac (心臓学分野) の研究室で基礎研究をしてきました。ライデン大学は1575年に設立されたオランダ最古の大学、さらにはヨーロッパでも最も古い総合大学のひとつです。また、心臓学分野では優れた研究がなされており、心電図法を発明し、ノーベル賞を1942年に受賞した Willem Einthoven はライデン大学の教授でした。

私の研究室では研究者はオランダ、インド、イタリア、ロシア、タイ、中国などから来ており、とても国際色豊かでした。また、それぞれが大きなプロジェクトを持ち、忙しくとても活気がありました。

私の最初の難関はテーマを決めることでした。初日にこれから何をしたいか教授に聞かれました。当たり前ですが、リサーチテーマが与えられることは決してありません。いくつかの論文をいくつかの疑問に投げかけた最初の疑問は心臓細胞と心室細胞は構造的・機能的に何が違うのかということでした。教授もこの着眼点に関心をもってくれたので、私の研究テーマは、Structural/Functional Characterization of Atrial and Ventricular Cardiac Cells となりました。さらに論文を読み進め、線維芽細胞の分化を DNA 阻害剤を用いて抑制した場合とそうでない場合、心房と心室の細胞にどのような違いが生じるのかを調べるために実験を始めました。実験に使う器具を探すだけでも誰かの助けが必要だったので簡単に実験が進んだわ

得意とし、その違いも非常に興味深かったです。練習後にはオープンスペースでのおしゃべりが恒例でした。社会人や外国人も多く、私にとってオランダで学生や研究者以外と触れ合う貴重な時間でした。

その他、休日にはオランダに数多くある博物館を訪れたり日本食をつくって振舞ったりと、この二ヶ月間は休む暇もなく私生活もとても充実したものでした。

ライデンでの基礎研究はもろろんのこと、すべてのことが貴重な経験になりました。私の中で三年生の終わりにあるリサーチセミナーは学生生活の一つの目標でもあり、区切りでもありました。リサーチセミナーを終え学生生活も折り返し地点にきた今、研究室の皆がくれた Keep on studying keep on improving. の言葉を胸に、今後も精進していく次第です。

最後になりますが、小野先生、ルーク先生、学務の皆様、ライデン大学の Decker 先生や研究室の皆様のご支援のおかげで今回のリサーチセミナーを無事に終了することができました。心より感謝の意を表します。



研究グループ会



研究室のデスク



ジュネーブWHO本部

柔道仲間と

研究室の様子



柔道仲間と



研究室の様子

リサーチセミナー
ライデン大学での研究を終えて 3年 坂山 朋子



ライデンの風景

あることを改めて感じました。日本にいると、つい受身になりがちですが、それでは世界では通用しないと痛感しました。最終的な研究成果は満足のものとなりましたが、その過程ではたくさん失敗し、悪戦苦闘しました。ここには書ききれないほど濃密な時間を過ごしたりリサーチ期間でした。最後にラボの方々にもまた戻ってこい、いつでも戻ってこいといざと言っていたことは心の底から嬉しく、今後の励みになりました。

また、オランダに行ったら絶対にやろうと決めていたことがあります。それは柔道大国オランダで柔道をするということ。柔道経験のある私です。柔道経験のある私は、外国の柔道にとっても興味がありました。ライデン大学附属のスポーツセンターには柔道教室があり、ここに行くことがオランダでの楽しみの一つでした。背負投げなど重心を低くしてかける技が得意な日本人に比べ、オランダ人は、大外刈りなど長身を生かした技を

リサーチセミナーを終えたい。ライデン大学での研究を終えたい。ライデン大学での研究を終えたい。ライデン大学での研究を終えたい。

サークル紹介

ジャズ同好会



ジャズと言われると、みなさんはどんなことを思い浮かべますか？カフエやラジオのBGM、バーやレストランのライブ演奏。レコードから流れるビバップ、美しいボーカルのボサノバ、ハイテンションのクラブジャズ。そんなお酒落な音楽を、自分でも演奏してみたいと思ったことはありませんか？

こんにちは、ジャズ同好会の吉川亮と言います。僕は全学のジャズサークルでの活動を経て、現在医学部の方で新たなジャズ同好会を立ち上げているところです。ジャズという音楽はある意味でもユニークな音楽です。元々ジャズは、アメリカ南部で生まれたブルースとヨーロッパの伝統的な音楽がミックスされて生まれた、キャバレーなどで演奏されるステーション音楽でした。それが次第に小編成バンドの音楽と変化していくにつれ、プレイヤーの自由奔放なインスピレーションと得意即妙のコンビネーションに委ねられるようになりまし



歌えばんばん

私達は週に1度、月曜日から金曜日の17時から19時に、ボンペ会館談話室で活動しています。上手下手にとらわれず、楽しく歌うサークルにしようと思つて作り直しました。今までコブクロの桜、世界がひとつになるまで、長瀬剛の乾杯などを歌ってきました。歌が好きな人なら誰でも大歓迎なので是非一緒に歌いましょう！

興味がある方は医学部三年 秋月 (0520113001 @nagasaku.ac.jp) に気軽に連絡してください。



と」です。ジャズに興味がある方、初心者でも経験者でも、すでに他のジャンルで活躍されている方もかまいません。一緒にセッションしてみませんか？ご連絡はメールアドレスにどうぞ。
nightsshortlw@gmail.com



長崎大学スキューバダイビングサークル



長崎多職種連携・たまごの会

平成27年度から長崎大学でサークル化された「長崎多職種連携・たまごの会」の紹介です。

私たちは「多職種のたまご同士が生きた知識を教え学び合い、地域包括ケアをひびく存在になつていくこと」を目指し活動するサークルです。

▼特徴
長崎大学医学部にとどまらず、長崎大学の他学部や、他大学の学生がサークルに参加できます。現在は長崎純心大学の学生さんと一緒に活動しています。

学生のうちから違う職種の間で学びあふことが、他の職種を理解でき、尊重し合いながら将来共に働くことに繋がると考えます。福祉・介護・保健・医療と、それぞれの分野のスペシャリストたちが自身の専門外の分野を知り理解することにより、



▼第1回たまごの会主催勉強会MSWを知ろう会
MSWとは医療ソーシャルワーカーのことで、医療分野(eg.病院)で働くソーシャルワーカーのことを指します。今回の勉強会では長崎市立市民病院(現・長崎みなとメディカルセンター)で初めてMSWとして雇用された、宮川江利先生をゲストスピーカーに呼び、お話ししていただきました。お話しの中で特に印象に残っているのは、「福祉＝高齢者、障害者ではない。福祉とは、私たちが私たちらしく地域社会で生活できるように支援することに重きをおいている」という点です。実際の仕事内容のお話を聞いたあと、グループごとに入院患者さんが退院する際・した後の課題を考え、その解決策をMSWとして考えました。福祉面のことと純心生が長大生に、そして医療面のことを長大生が純心生に教え合いながら、課題を考え対策案を出し合いました。その



光景は、まさに医療と福祉の連携でした。宮川先生からも、「どのグループも患者さんだけでなく、その家族にも配慮出来ている」「学生とは思えない発想もあり感心している」とお褒めのお言葉を頂きました。次回は、実際の退院カンファを見学させていただき、その体験を共有するプレゼンを6月に開催する予定です。

長崎大学医学部にはFLANやカステラEatesなど魅力的な医療系サークルがあります。今後、医療系サークルに留まらず他のサークルともコラボしていくイベントが出来たらいいなと、たまごの会メンバーも思っています。まだ立ち上げホヤホヤのたまごの会を、宜しくお願ひします。

たまごの会に興味を持って下さった方は、下記のアドレスまでご連絡ください。「〇〇について勉強会開きたい」という熱い方、ご連絡ください。一緒に形にしていきたいませんか？

Facebookでたまごの会の活動を更新していくので、ご覧ください。「長崎多職種連携・たまごの会」で検索してください。♪

部長
医学部2年 内田直子
renkeinagasaki@gmail.com

